

コスト・ラム ڪستو رام

2010年2月14日発行

＝ ブジュン村点灯 10 周年記念・同索道完成特集号 ＝

トレッキング、マナスル山群の遠望



索道架設作業風景



索道竣工式式典会場



ブジュン村小型水力発電所パワーハウス

TOKUSHIMA NEPAL FRIENDSHIP ASSOCIATION

やっと完成したブジュン村貨物運搬用索道（ロープウェイ）

徳島ネパール友好協会会長 杜 和彦

会員の皆さん、昨年から建設していました索道が多くの方々のご協力によりついに完成しました。去る12月3日、ブジュン村「徳島の日」にめでたく竣工し、小水力発電所、点灯10周年記念と併せて、ブジュン村にて盛大に式典が行われ、徳島からも大勢参加しました。

多くの会員がご承知のように、ブジュン村は居住する区域と生活の糧を得る農地の区域が標高差350mもあり、日々の農作業や資材、収穫物等の必要物資の運搬がすべて人力であり、近年ブジュン村においても現金収入を得るために多くの（村の約半数の家庭）若者や男性が国外に出稼ぎに行ってしまう、残された女性、老人、子供たちによってこの重労働が担われてきました。

「日本に居てなぜ、私たちが一番欲しいものが分かるのですか」とある村の女性がいていましたが、彼等にとっては待望の施設であります。

日本の山村では約30年前まで、ワイヤーとエンジンなど動力を用いた索道が、ごく普通に利用されていましたが、ネパールでは殆ど設置されていません。工業が未発達で、これらの資材が非常に高価であることが、その原因でないかと考えられます。

ネパールでは殆ど見かけない施設であるため、資材、機器類、設置作業等が全て徳島からの指示が必要であり、ワイヤーや支柱、部品などの製品強度や精度が不明であったり、設計図面のやりとりなど、非常に手間暇がかかりました。

総延長1000mの索道で小水力発電所からの電気によるモーター駆動により、遙か下方の水田から貨物が10数分という短時間で到着する様子には村人は驚嘆の声を発したに違いありません。

建設費用は当初予定の1000万円をオーバーし1100万円となりました。郵貯機構からの配分金760万円余り、会員、県民、企業など多くの方々の基金が寄せられていますが、現在のところ約100万円不足しています。

来年度は索道2本と村からの要望が強い発電能力のアップについて、現在郵貯機構にむけて、配分の申請を提出しています。総事業費は約2300万円で内ブジュン村負担が300万円、残り約2000万円は当協会の負担となります。

郵貯機構からの配分によりますが、かなり不足することが見込まれます。引き続き会員の皆様の募金活動へのご協力をお願いします。



目 次		
やっと完成したブジュン村貨物運搬用索道（ロープウェイ）	杜 和彦会長	1
ブジュン村農産物運搬用索道について	早田健治 索道建設委員長	2
完成式典報告	山田善仁副会長	3
ブジュン村旅行日程表、ネパール写真展へのご案内		4
ブジュン村索道完成報道記事		5～7
ブジュン村資材運搬用ロープウェイ 《現地代理人：シャム・S・シュレスタ》		8
ブジュン村点灯10周年アンケート報告		9～10
ネパールでの荷物運搬用索道建設にご支援をお願いします。		11
事務局だより		12
ラムジュン・ヒマール・トレッキング報告	リーダー：谷口安孝	12～13

ブジュン村農産物運搬用索道について

架設の目的

ブジュン村の集落とメディム・コーラ(川) 対岸に広がる農地(約30ha)を結び、現在は人肩により運搬されている米等の農産物、家畜の飼料等を水力発電により発生した電力を活用して運搬し、過重な労働を軽減するとともに、余剰となる労働力をさまざまな福祉や生活の向上のために活用しようという目的で架設しました。

索道の概要

索形式	エントレスタイラー式	設計荷重	400 kg	原動機出力	7.5 kw
主索直径	18mm	荷揚索直径	9mm	循環索直径	6mm
総延長	888 m	支間数	2	最大支間	635 m
起点標高	1600 m	高低差	265 m	傾斜角	15度

架設の経過

2008年

12月

ブジュン村での予備調査(現地踏査、基本測量)

2009年

1~3月

索道実施設計

4月

ブジュン村での計画現地説明・架設位置の決定

5~9月

資材の発注・製作・調達

10~11月

資材の輸送、土台工事の実施

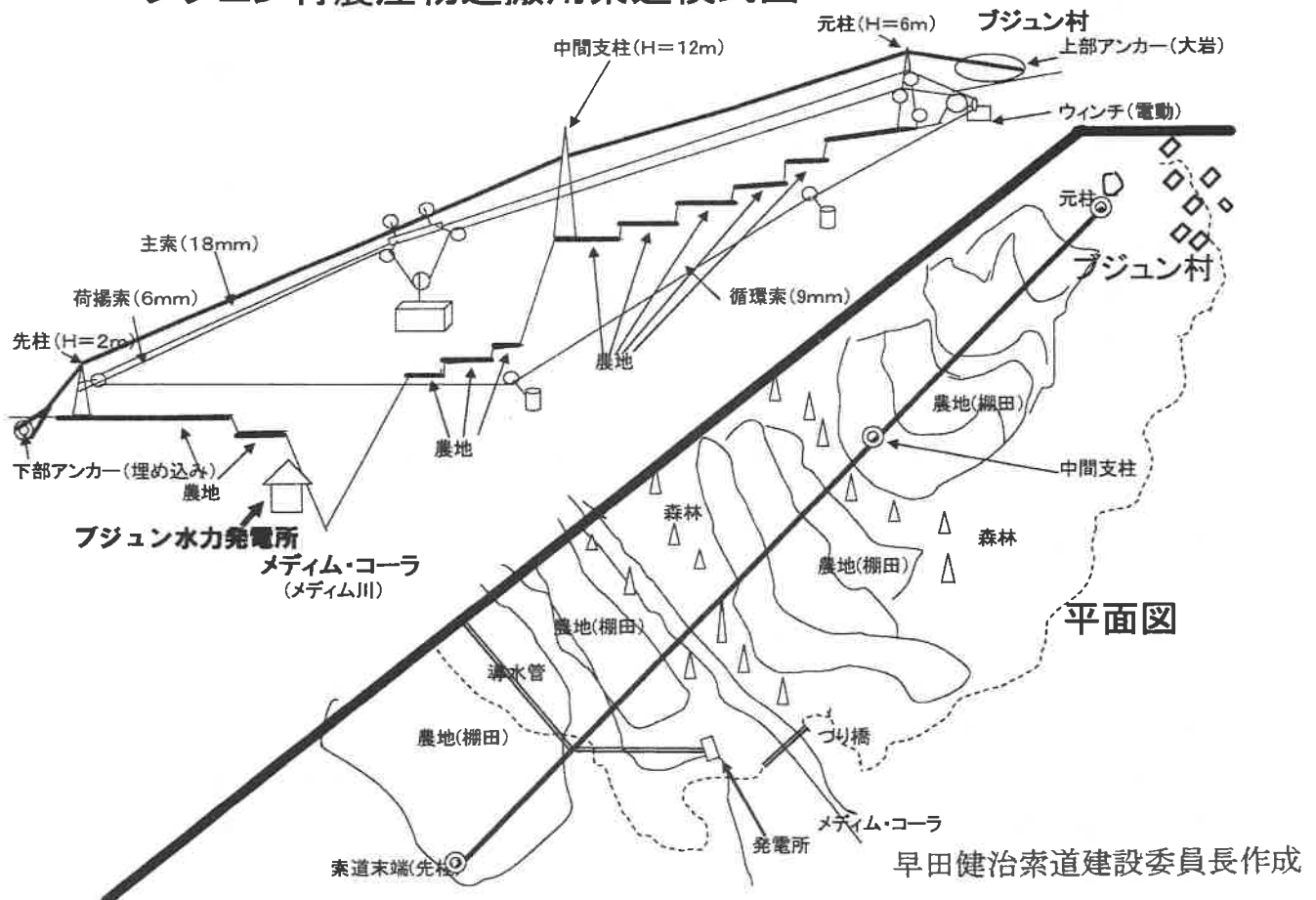
11月25日~

架設工事、試運転

12月3日

運転技術指導、公開運転、施設引き渡し、完成記念式典

ブジュン村農産物運搬用索道模式図



完成式典報告

徳島ネパール友好協会副会長 山田 善仁

12月3日(ブジュン村徳島の日)、式典会場への路地には、大勢の生徒からレイを戴き、拍手とナマステ!の中、ひとりひとり歓迎をうける。会場は村人みんなが集まったようで、人、人、人

- 式典はブジュン村担当者の挨拶で始まり、発電所完成10周年を記念し、功労者に記念品が授与された。
- ブジュン、徳島双方の来賓より、発電所と索道による、生活改善と10年以上におよぶ交流の意義と村人との絆、信頼が未永く続くことへの講話があった。
- 索道完成を祝って、その建設に従事された技術者ひとりひとりが称えられた後、索道設備の引渡し覚書に、ブジュン側：ナラヤン・バハドール・グルン氏、徳島側：天野親聡当協会事務局長によって調印された。
- 美馬教育基金に係る奨学金制度利用の学生に、美馬準一氏ご本人からひとりひとりと握手をして、学用品と奨学金が手渡された。次いで、今年度の教育基金(金一封)が美馬氏より村の責任者であるナラヤン・バハドール・グルン氏に贈呈された。
- 最後に村人による日本の唱歌「シャボン玉飛んだ」「夕焼け小焼け」を出席者の細田さん、藤池さんのハーモニカ演奏に合わせて日本語で上手に合唱した。また、フィナーレは村人の阿波踊りとネパール民舞があり会場は最高潮に達した。
- 15時過ぎ、場所を民家横の畑(元柱付近)に移し、索道運転レセプションが行われた。早田さんのトランシーバー合図で開始指示。空(から)のゴンドラを吊り上げ、元柱と中間支柱辺りまで往復移動。村人一斉に拍手。次にゴンドラに荷物を積み再度往復移動、完了した時には村人最高の感謝、感激の拍手、拍手。終了後、索道技術関係者ひとりひとりに村の少女から安全祈願と感謝を込めて、額にお供えの米を添附して一連の儀式を終えた。

ありがとうございました。ダンネバー!



ブジュン村索道竣工式式典プログラム

1. 歓迎スピーチ
黙 禱 故ティルサ・バハドール・グルンさん / 故中瀬敬之先生
2. 主賓あいさつ ナラヤン・B・グルン氏
3. 日本政府(在カトマンズ日本大使館大使代理)あいさつ 半井麻美三等書記官
4. 徳島ネパール友好協会あいさつ 天野親聡事務局長
5. ネパール徳島(日本)友好協会あいさつ クル・バハドール・タパ氏
6. 覚書交換 《ナラヤン・B・グルン氏 = 天野親聡事務局長》
7. 索道説明 早田健治索道建設委員長
8. 感謝・状贈呈
9. 奨学金贈呈と成績優秀者への文具類の贈呈 美馬準一顧問
10. カルチャー・プログラム 《ブジュン村人によるネパールダンス、阿波踊り、日本唱歌合唱等》

ブジュン村点灯10周年、索道建設等記念事業参加への旅日程表

2009年11月～12月

1. 11月22日(日) 索道建設技術者派遣団(6名、1名は先発済)徳島を出発
ラムジュン・ヒマールトレッキング隊(5名)同徳島出発
2. 23日(月) 前記、2グループ、カトマンズで各事業打合せ・準備、観光等
3. 24日(火) カトマンズを早朝出発(陸路)し、夜ブジュン村に到着、歓迎会
4. 25日(水) 技術班は索道建設作業を開始、トレッキング隊は村を出発
両グループとも、12月2日まで上記行動を展開(別項を参照)
5. 26日(木) ラムジュン・ヒマール短期トレッキング隊(7名)日本出発
6. 27日(金) 前記グループ、カトマンズで事業打合せ・準備、市内観光等
7. 28日(土) 同グループ、カトマンズを早朝出発(陸路)、夜ブジュン村に到着、歓迎
8. 29日(日) 同短期トレッキング隊、村を出発(12/1まで同行動を展開)
9. 30日(月) 点灯10周年・索道竣工式出席旅行団(6名)徳島を出発
10. 12月1日(火) 前記グループ、カトマンズで事業打合せ・準備、市内観光等
11. 2日(水) 同グループ、カトマンズを早朝出発(陸路)、夜ブジュン村に到着、歓迎
短期トレッキング隊(12/1村に帰路)ブジュン村内散策
ラムジュン・ヒマールトレッキング隊、ブジュン村に帰路
索道建設技術班、村民等により索道完成、旅行団全員が集結
13. 3日(木) 小水力点灯10周年・索道竣工等記念式典、同見学、交換会等
14. 4日(金) ブジュン村を早朝出発(陸路)し、夜カトマンズに到着
15. 5日(土) カトマンズ観光、ホテル徳島友好協会による「お別れ会」開催
16. 6日(日) 12/5夜カトマンズ出発、香港経由、関西空港を経て夜、徳島到着

“ネパール写真展”

山・人・村 そして索道

日時：平成22年2月24日(水)～同年3月1日(月)

午前10時～午後17時まで(3/1は16時まで)

会場：徳島市シビックセンターギャラリー：入場は無料

出展写真約90点

ネパール・ブジュン村に徳島県民の大きなご支援で点灯(小型水力発電所の建設寄贈)し10周年を迎える昨年、その記念事業として取組んでいた「索道」が12月3日に完成しました。

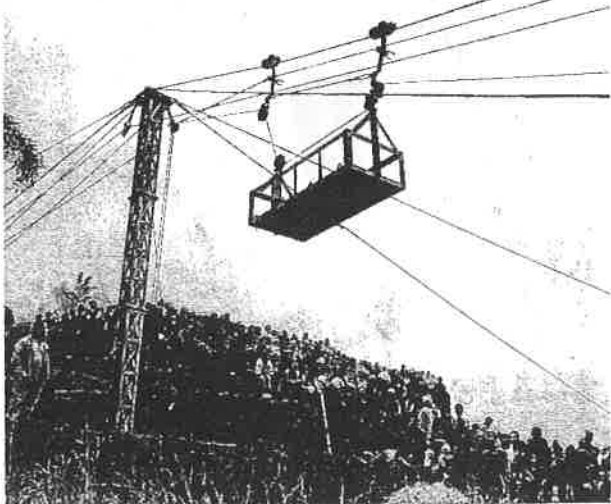
そこで、当協会では点灯10年の小水力の様子、索道建設の様相、同記念式典と村民の歓び、及び同村山城(ヒマヤ・ラムジュンヒマール)への記念トレッキングや同山群をレンズを通して県民のみなさんにご報告のため、この度「ネパール写真展」を開催することになりました。多くの方々のご来場をお待ちしております。

案内図



徳島友好協・林業家・現地600人が協力

ネパールに索道完成



大勢の村人が見守る中、完成した索道

「徳島ネパール友好協会(社和彦会長)が、ネパールの高地の村・ブジュンで建設を進めていた荷揚げ用索道(簡易ロープウェイ)が今月上旬完成した。10年前に同協会が寄贈した小型水力発電所を動力にして、村人の厳しい労働を和らげるのが目的だ。県内の林業家6人がボランティアで参加し、建設や現地の人々の指導にあたった。

(田中昭宏)

田畑と村結ぶ300m



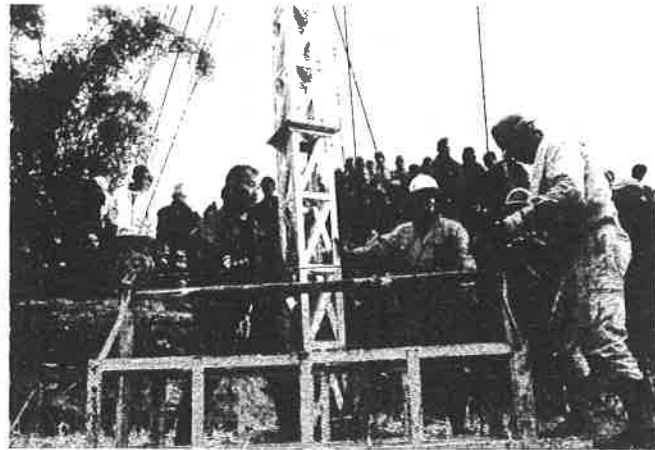
現地の人(左から2人目)に操作方法を指導する県内の林業家たち。いずれも早田健治さん提供

同協会の関係者25人が11月24日に現地入りし、12月2日に完成した。索道建設には協会のメンバーで県南部総合県民局の林務担当、早田健治さん(59)が、国の林業奨励作業主任者の資格を持つ林業家6人に呼びかけて、ボランティアで作業にあたった。

ブジュンは標高約1800m。車で往ける地点からさらに3時間、山道を歩かねばならない。早田さんと村人約600人が、ワイヤなど資材8tを担いで村に運んだ。鉄塔の組み立てや架線の敷設などは、

索道完成、村人に歓声

徳島友好協会員 村に引き渡し



大勢の村人が見守る中、完成した索道を試運転する徳島ネパール友好協会関係者—2日、ネパール・ブジュン村

物資運搬など威力発揮

徳島ネパール友好協会がネパール奥地のブジュン村で整備していた物資運搬用の索道が完成し、村に施設が引き渡された。記念式典に臨んだ協会員が帰国し、8日、現地の様子を語った。協会が小型水力発電所を贈って10年になるのを記念した支援事業。村人たちは早速、飼料の運搬などに利用している。

式典は村の野外集会場であり、村人600人が参加。徳島県からは協会関係者ら25人が出席した。協会事務局長の天野親蔵さん(66)と石井町藍畑川が「発電所と索道を村の生活改善に生かしてほしい」とあいさつ。村の代表者と索道施設を無償譲渡する覚書を交わした。

村人からはネパールの伝統舞踊や郷土料理のものをなした。村の子どもたちは日本の童謡を歌って、一行にお礼の気持ちを伝えた。

索道は延長950m、標高1600mの高地にある村へ、約300m下

の川の対岸にある水田地帯を結ぶ。鉄製のゴンドラで農作物やまきを一度に300kg運搬できる。

索道施設は2日に完成し、試運転。家畜の飼料用のわらが村まで約15分で運ばれると、村人から歓声が上がった。これまでは急な山道を約1時間かけ、1人当たり30kgの荷物を運ぶのがやっとだった。

協会は4月から索道建設に着手。事業費は1100万円で、国際ボランティア貯金から766万円の配分を受けた。残りは県内から寄付金を募り完成させた。

徳島

6人が中心となって取り組み、村人にも指導。完成後の運搬の方法も6人が教えるとともに、村と一人を運んではいけないなど日本国内の法令に則した覚書を交わした。林業家6人は、海外で作業をするのが初めて。早田さんは「現地の人は熱心に指導を受けていた。索道がほしいという気持ちが伝わってきた」と言う。上勝町の林業家田中豊司さん(61)は「現地の人は普段、裸足で山道を歩いて重い農作物を運んでいる。索道が完成して本当に喜んでいた」と話す。

ブジュンでは大量の樹木が燃料用に伐採されていたことから、現地のNGOが森林破壊を防ぐため水力発電所の建設を計画していた。それを知った徳島ネパール友好協会は10年前、県内で募金などを集めて建設費を寄贈した。

索道建設は、発電所稼働10周年を記念して計画。寄付など約800万円で行った。今年度は、村の集落と約300m以下の田畑とを結ぶ索道1本が完成した。来年度以降も新たな索道を計画している。

友好協が発電所・索道建設

地域に根付く 徳島の善意

ネパール・ブジュン村

徳島ネパール友好協会がネパールのブジュン村に建設していた物資運搬用の索道が完成し、今月上旬、現地で水力発電所建設10周年の祝賀も兼ねた式典があった。協会員とともに出席した鳴門市瀬戸町明神出身の外交官半井麻美さん(31)はネパール日本大使館一等書記官に、交わりつつある村の様子や事業の意義を聞いた。

駐在外交官 半井さん(鳴門市出身)に聞く

首都カトマンズから 現在の電気の普及率 車と徒歩で12時間。村は98%。小さなランプの数が手前から花の首が頼りだった生活がこ飾りを手にした村人の10年、電気の明かり出迎えられ、歌や踊りや電気器具の導入で二り、郷土料理と、村を、教育水準は周囲の挙げたもてなしを受け、村々比べ、群を抜いた。協会の事業が村人へ高くなったという。に心から喜ばれていることを実感した。

協会が村に小型の水力発電所を贈ったのは1999年12月。村人合わせて使われていた話を聞く、電気が、食事の準備をするにいたるまで「夢」女性たちが、腰をすりのよみで信しられながら、ながら会話を楽しんでいった。電化は伝統的な感謝の言葉が口をついて出た。

伝統守りつつ生活改善

標高1600mにあり、物資の輸送を人力に頼っている村では、索道にかける期待は大きい。若者は出稼ぎで都市部や海外に出ており、村の基幹産業の農業を支えるのは高齢者と女性、子ども。索道建設は負担軽減に大きく貢献するとみられる。

昔ながらのかまども健在で、電気調理器と1999年12月、村人合わせて使われていた話を聞く、電気が、食事の準備をするにいたるまで「夢」女性たちが、腰をすりのよみで信しられながら、ながら会話を楽しんでいった。電化は伝統的な感謝の言葉が口をついて出た。



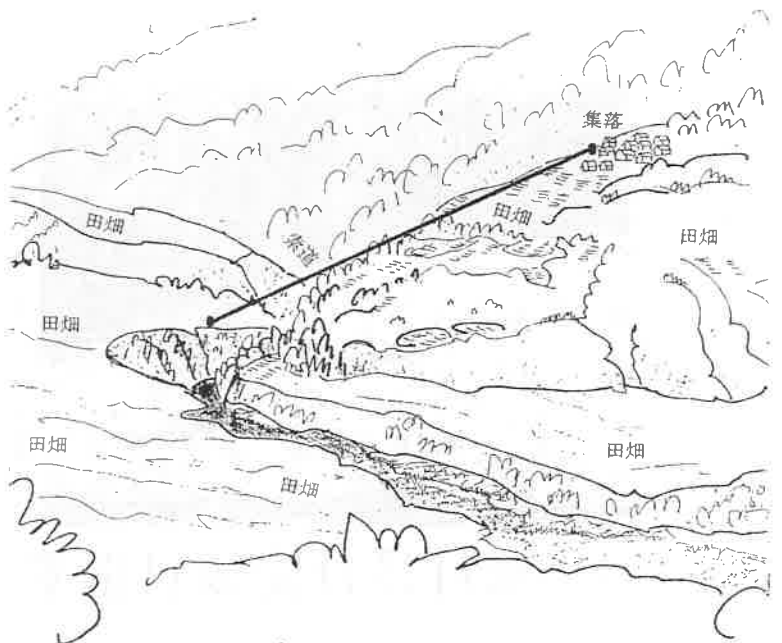
村人から花の首飾りを掛けられ歓迎を受ける半井さんら11日、ネパール・ブジュン村(徳島ネパール友好協会提供)

する側に委ねるようになるが、各事業を上手く、自分たちでしっかりと連携させている点はほりと活用方法を考え、特に勉強になった。水力発電の維持管理、これらの支援は、徳理が10年にわたって適切な行われてきた秘訣こそ、那賀町など徳島このあたりにありそう。

継続 関連・自立

協会の支援の特徴は、一つの村に長年かかわる「継続性」、で協力してくれたことプロジェクト同士の「関」によって日本の顔が見「連性」、事業の立案段階から村人と練り上げ、維持管理も含めて、電気のみならず、村人の手で運営できる「自立性」の三語に集約できる。の子どもたちが、やが水力発電を基盤に、そで近隣の村々の生活向度で起こした電気を今以上に力を尽くす日が来るのでは、かと期待している。

ブジュン村索道架設計画スケッチ



「遠くネパールの山 たった中原敏博さん 25年前から林業に従村の発展に徳島伝統の(50)那賀町蔭谷、林事している。山林の木林業技術が生かして光業関連会社経営、写真材搬出用に架設した索道」。徳島ネパール友好協会は昨年、ブジュン村に贈った物資運者6人のリーダーを務れんとてきん」。腕を見込んだ協会から声が

技術生かし索道建設

ぴーぷる

掛かった。「自分たちが持つ技術で、途上国の暮らしが豊かになれば」と、町内の同業者に声を掛けた。海外では初めてとなる索道建設。資材が整わずに苦労したが、村人と助け合って稼働にこぎ着けた。協会はあつた本の索道を整備する予定。「ブジュンの人たちの期待の大きさに胸を打たれた。次もぜひ参加したい」。

ネパール支援へ ロープウエー

NGO 作物運搬用に建設



ネパール中部のブジュンで、重い荷物を背負って運ぶ住民 (徳島ネパール友好協会提供)

石井町の非政府組織(NGO)「徳島ネパール友好協会」が、ネパール中部のブジュンで荷物運搬用のロープウエー建設を進めている。田畑から約300m高い集落に、人力で農作物を運ぶ住民の負担軽減が目的だ。10年前に寄贈した小型水力発電施設を使い、電気が通った日と同じ12月3日の完成を目指している。



協会は、天野親聡事務局長(66)が1996年、まぎに使う木の伐採でブジュンの森林破壊が進み、電化が必要との話を聞き設立。99年12月、寄付金で出力80瓩の発電施設を完成

させた。電気が通ったことで、子どもたちが夜も勉強できるようになった。まぎの煙による健康被害も減ったが、出稼ぎで若い男性は村に少なく、女性らが数十kgの農作物を運び上げる日々が続いている。

ロープウエーは長さ約800mで、建設費用は約1千万円。天野事務局長は「同じ苦勞をしている地域は多く、今回のロープウエー技術がネパール中に広がることを期待する」と話している。

世界銀行によると、同国の1人当たり国民総所得は日本の1%程度。国際協力NGOセ

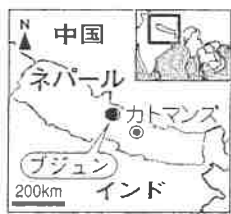
ンター(東京)によると、40を越す日本のNGOがネパールで活動している。

2009年(平成21年)11月24日 火曜日

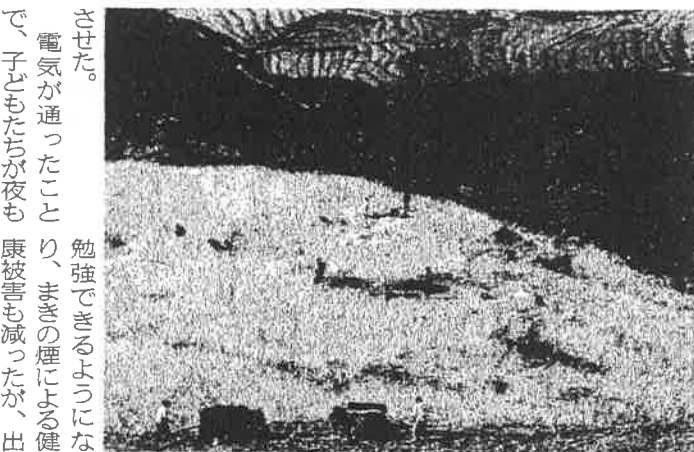
徳島のNGO、ネパールにロープウエー建設

徳島県石井町の非政府組織(NGO)「徳島ネパール友好協会」が、ネパール中部のブジュンで荷物運搬用のロープウエー建設を進めている。田畑から約300m高い集落に、人力で農作物を運ぶ住民の負担軽減が目的だ。10年前に寄贈した小型水力発電施設を使い、電気が通った日と同じ12月3日の完成を目指している。

農作物運搬 負担軽減を



協会は、天野親聡事務局長(66)が1996年、まぎに使う木の伐採でブジュンの森林破壊が進み、電化が必要との話を聞き設立。99年12月、寄付金で出力80瓩の発電施設を完成



荷物運搬用ロープウエーの建設現場。10月、ネパール中部のブジュン(徳島ネパール友好協会提供)

長さ800m 来月3日完成目指す

世界銀行によると、同国の1人当たり国民総所得は日本の1%程度。国際協力NGOセンター(東京)によると、40を越す日本のNGOがネパールで活動している。

2009年(平成21年)11月26日 木曜日



索道、11月2日完成

徳島友好協 本體工事に着手

徳島ネパール友好協会は、12月15日まで完成させる。300m開ける0.5mの高地にある村と、約300m下の川の対岸にある水田帯を結び、農作物やまぎを運搬する。急傾斜地で暮らす村人の負担軽減を図るのが目的で、昨年12月に整備を始めた。

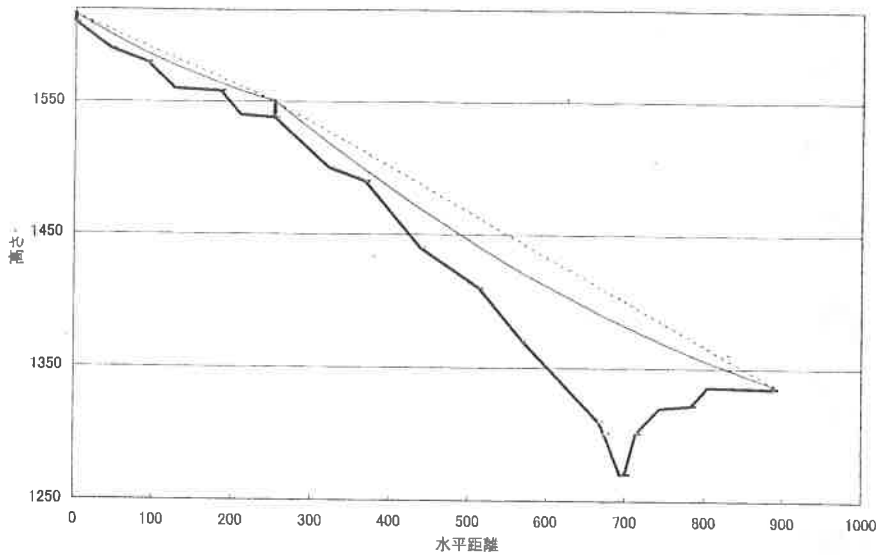
協会が建設した発電所稼働10周年も兼ねた記念式典には、協会事務局長の天野親聡さん(66)と石井町長(66)が参加。索道の稼働を確認した後、村人に施設を引き渡す。式典では阿波踊りと現地での交流も行った。

索道は延べ7人がブジュン入り。索道の支柱やアンカー、架線の設置作業に取り掛かった。作業は5日ほどかかる予定。索道は延



唱歌の合唱もある。一行は村人と共に、国立公園内の標高5000m付近まで山歩きを楽しみながら交流を深め、6日に帰途に就く。建設費用は1000万円掛かっている。

ブジュン索道軌跡図



ブジュン資材搬送用ロープウェイ

ブジュン村は、ネパール中央部のガンダキ州、ラムジュン郡の北西部に位置しています。村は、ACAP(アンナプルナ特別自然保護区域)内にあるグルン族の村です。グルンの人々は、丸い顔、キラキラ光る目、そしていつも微笑みをたたえた頑丈な丘の民族です。ブジュン村は、グルン族独自のGhatuのような非常におもしろい伝統的なダンスをはじめとした豊かな文化を持っています。また、豊かな自然の美しさに満ちています。ブジュン村は、約400軒の家がぎっしりと狭い通路の両側に密集し、ラムジュン・ヒマールの南東のわずかに陽の当たる斜面に位置しています。

村の下を流れるミディム・コーラとその小さい支流は、夏に米そして冬に小麦が穫れるなどらかな斜面の段々畑を灌漑しています。乾燥した耕作地の上部では、とうもろこしや稗などのそれ以外の作物が栽培されています。穀類とじゃがいもを栽培することに加えて、ミルクのための牛や畑を耕すための雄牛、ミルクと肉のための水牛、そして肉と羊毛のために羊を飼っています。しかし農耕からの収入は、家族を養うためには十分ではありません。

村は、郡庁所在地のベンサハールから車で3時間そして徒歩2時間半のところにあります。多くの人々がインドの、そして、イギリスの軍隊に雇われています、そして、最近、少なくない人たちが、湾岸諸国とマレーシアで工場労働者として働いています。事実上、海外送金は多くの家族にとって主な収入源となっています。

徳島ネパール友好協会からの支援を含めての資金により80KWの超小型水力発電所が1999年に建設されました。現在、カトマンズを含めたネパール中部送電網が、毎日長時間の停電に直面しているとき、ブジュンの人々は幸運なことに自分たちの川からのとぎれることのない電力供給を享受しています。

村は2、3の年後に車で走れる緑色の道路によってつながるでしょう。しかしながら、約300メートル下から農産物、砂、および石を運びあげる骨の折れる仕事は、同じままで残るでしょう。索道は、2009年12月3日に工事を終え、ブジュンの超小型水力発電所の10周年を祝賀するためにそのお祝いとして村の人々のこの毎日の苦勞を取り除くものとして寄贈されました。索道の建設は、日本の独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険管理機構の国際ボランティア貯金の寄付金の配分を受けて、総工費8,200,000ネパール・ルピー(10,250,000円)で徳島ネパール友好協会によって行われました。初めに、ネパール人の土木技師と技術者による土木工事が行われ、そのあと基礎工事が日本のチームによって行われました。そして、最終的なロープウェイ据付け工事が日本からの技術者チームによって行われました。

索道の巻き上げ機や滑車やサドルやゴンドラ吊り具や工具類などの主要部品は、日本から持ち込まれました。同様に、鉄塔のユニットとワイヤー・ロープはインドから輸入し、残りのセメントや鉄筋などの建設資材はネパールで購入されました。村人は、工事の全期間を通してそして据え付け工事の間、自発的に大いに貢献しました。村人は、10トンの資材をトリパリの車道終点から村までの10キロの区間を3日間で運ぶという途轍もない仕事をやり遂げました。村人たちのこの貢献は、索道を維持管理をしていこうという帰属意識を生み育てていくことでしょう。運転マニュアルに従って運転と維持管理が行われるならば索道は、30～40年間稼働するでしょう。

専門的には、この索道は延長864メートル、高度差255メートルで、3つの鉄塔からなっています。最初に、村の中にある高さ6メートルの巻き上げ機横の鉄塔、次に中間の高さ12メートルの鉄塔、および高さ2メートルの農耕地にある先端の鉄塔です。この索道は、300kgを運ぶ容量の1艘のゴンドラを操作します。巻き上げ機のモーターは7.6kWの電気を必要としますが、ブジュン超小型水力発電所から供給します。3本ワイヤーの上下昇降式の索道はユニークで、恐らく南アジアで最初のものでしょう。この索道は、メイン・ケーブルのどの任意な点からも資材を積み降ろし、積み込みが可能です。これは、クラッチとブレーキを備えた2つのドラムがある巻き上げ機だからです。基本的に、ゴンドラの両端にある上下2つの滑車セットの上部滑車が18mmの直径の主なケーブルの上を動きます。直径9mmのエンドレス牽引ワイヤーがゴンドラを移動させます。直径6mmのワイヤーがゴンドラ両端にある滑車セットの下部滑車を支点にしてゴンドラを地面に降ろしたり揚げたりします。索道は、2009年12月3日にブジュン村において、日本大使代理、日本の徳島からの代表団、カトマンズからの賓客、村の長老のみなさん、および学校の先生方そして村人の大群衆が集まった素晴らしい祝賀式典においてブジュンの人々の前で正式にブジュンの人々に引き渡されました。代表団員による日本の歌、村の少年や生徒による歌が披露されました。そして、ダンスのあと華麗なGurung Ghatuが舞われ式典に花を添えました。

リサーチ アンド デベロップメント グループ 取締役 シャム・S・シュレスタ

(徳島ネパール友好協会・現地代理人)

ネパール・ブジュン村 発電所設置10年

生活様変わり 住民喜びの声

アンケートは、物置運搬用の索道建設事業の打ち合わせで、4月にブジュン入りした協会関係者が実施。345戸のうち311戸から回答用紙を回収し、集計した。

それによると、98・1%の世帯が電灯を使用。46%がボイラーに、44・7%が調理に電気を使っていた。以前は灯油もま

きが多かったが、電気の導入が進んでいた。

一方、まきの使用量は減ったものの、今も94・5%

テレビは34・3%、ラジオは70・0%、ビデオも25・1%が所有。情報

の入手や娯楽にも変化がもたらされていた。

電灯が使えるようになったことなどから、就寝時間は平均して2時間余り遅くなり、子どもの勉強時間は3時間半近く増

加。生活スタイルも変わってきた。

「世界中のニュースが分かるようになった」とい

ったが、協会が「特に女性や子どもの生活環境が良くなった。まきの量が減り、森を大切にするという考

徳島ネパール友好協会の支援で、ネパール・ブジュン村に小型水力発電所が設置されて10年。村民生活に大きな変化が表れていることが、協会のアンケートで分かった。テレビの視聴が始まったり、調理にも電気製品を導入したりと、村民からは、生活環境の向上を喜ぶ声が多数上がった。26日午後7時から、徳島市中央公民館で開く講演会で報告する。

徳島友好協 住民調査 98%の家庭に電灯

と分析している。

講演会では、発電所建設から10周年を記念して進めている索道建設事業の概要説明などを行う。協会は索道建設に寄付金を募っているが、まだ不足しているといい「講演会で事業に関心を持ってもらえれば」と協力を呼び掛けている。

ブジュン村点灯10周年アンケート

ブジュンMH(マイクロ水力)ができて10年になります。この10年間電気のある暮らしをされてきましたが、10年前の電気が村にきた時のことを思い出して、次のアンケートに答えて下さい。

《回収率90.14% (311戸/345戸)》

- 電気がきた時に感じたことを率直に聞かせて下さい。(次頁参照)
- 電気を何に使っておられますか！(単位：戸数、%)
 - 電灯 305 (98.1)
 - クッキング 139 (44.7)
 - ボイラー 143 (46.0)
 - その他 () 53 (17.0)
- 電気がくる前と後で睡眠時間は変わりましたか！
 - 変わった ○ 変わらない
 - 就寝時間が遅くなった (@戸平均：2.08時間)
- どんな電気製品をお持ちですか！(単位：戸数、%)
 - ライス・クーラー 75 (24.1) ○ ボイラー 94 (30.2)
 - テレビ 107 (34.3) ○ ビデオ 78 (25.1)
 - ラジオ 218 (70.0) ○ 冷蔵庫 9 (2.9)
- 薪(まき)の消費量(単位：束、@束約 kg、期間)
 - 以前より減った どれぐらい 6,092束 (@戸束、kg)
 - 以前より増えた どれぐらい () 束 ○ 変わらない
 - 薪を何に使っていますか！(単位：戸数、%)
 - クッキング 294 (94.5) 暖房 273 (87.8)
 - ボイラー 208 (66.9)
- 子供の生活に(単位：時間、@戸平均)
 - 勉強時間が増えた (1072時間：@3.45時間) 変わらない
 - 減った
- 徳島(ネパール友好協会)との関係について
 - 要望があれば聞かせて下さい。

भुजुङ म्हाइ अल विजुङ म्हाइ को १० व्ष हो । दो वर्षको जीवनमा कतानै विजुङ्ग माफो ? माउमा पढिने, बढ्ने विजुङ्ग माफो को क्षम सम्झी ततका कसैकसो नयाफ हेई म्हाइको परिचय होला ।

(1) विजुङ्ग माफो को क्षमता तपाईने अनुभव गरिका कुरीकर खुल्ला रुम्मा सुवाजनुहाइ ।

(2) विजुङ्ग के का तापी सदुपयोग परिसरनु भएको छ ?
(क) विजुङ्ग भान
(ख) खाना पकाउन
(ग) पानी उमाल्न
(घ) त्यस बाहेक अन्य

(3) विजुङ्गी शान्तनु अधी र बढि सुने समयमा फरक पाउनु भएको छ ?
(क) फरक छ । सुने समय पहिले । बने अहिले । बने
(ख) फरक छैन ।

(4) कस्ता प्रकारका विजुङ्गीका सामानहरु तपाईंसंग छन् ?
(क) गडम कुकर
(ख) पानी उमालने केली
(ग) टेलिभिजन
(घ) मिडीयो
(ङ) डीएन
(च) रेडीयो
(छ) त्यस भन्दा अन्य

(5) रातमा बाने परिमाण पहिलेको घन्टा -
पहेको छ । कति मुडा ? ()
पहेको छैन ।
बढेको छ । कति मुडा ? ()

(6) रातमा के का तापी सदुपयोग गर्नुहुन्छ ?
(क) खाना पकाउन
(ख) भाउने बान्न
(ग) पानी उमाल्न
(घ) त्यस भन्दा अन्य

(7) बच्चाहरुको जीवनमा अध्ययन गर्ने समय पहिलेको घण्टामा
बढेको छ । कति घण्टा ? ()
पहेको छ । कति घण्टा ? ()
बढेको छैन ।

(8) जो कुलिया (नेपाल वैद्यी संघ) रंगको संलग्नका बारेमा कुटी इच्छा (बहुतेक) हर, पारमा सुवाजनु होला ।



9 15-10/14

ブジュン村点灯10周年アンケート

= 問：電気がきた時に感じたことを率直に聞かせて下さい（代表的な回答のみ記載しました） =

- 以前は電気がなくて村全体暗くて、ご飯を作る、住む、歩くのにとっても難しかったです。今電気が来てとても助かりました。
- 電気が来て村全体がピカピカと光っています。とても楽しいです。
- 以前は電気がなくて何もニュースなどが分かりませんでした。このごろ電気があるからラジオ、テレビを通して国内、国際のニュースが分かるようになりました。
- ラムジュンの中も一番奥にあるブジュン村に首都のように明るい電気が点くと言うことは夢みたいでした。しかしこの夢は現実になっていることでブジュンのみんながとても嬉しいです。
- 電気を点けることが出来て満足しています。家で色々な商品を作ることが出来、収入が増えています。
- 電気が来た時村がとても明るくなりましたそれと同じく私の心も明るく感じました。
- 暗さがなくなり明るい所で生活が出来ました。灯油の問題がなくなりました。薪の消費が減りました。
- 昔々は電気って言葉だけ聞きました。今は実現で電気を見ることが出来とても嬉しく思っています。同じく続くことを期待しています。
- とても良い時でした。その瞬間は私は体験したことがなかったです。ネパール政府から電気がくれるという事は後10年待っても来ないと思いますが、そのことは10年先に電気を使うことが出来、とても嬉しいです。徳島にも感謝を申し上げます。
- 電気!! 私はとても嬉しいです。薪を使う問題が減りました。それと夜も時間がるとき色々な仕事が出来ようになりました。それから子供たちの勉強時間も長くなりました。
- とても嬉しかったです。煙の生活から出ました。電気が来て明るいところで生活出来るようになりました。新月後の満月が来たように感じました。
- 電気が来てとても嬉しかったです。我々のうちも市内の家と同じになりました。嬉しくて、嬉しくてどうしたら良いか分からなくなりました。灯油の煙から放れました。
- 電気が来た日私と私の家族全員が生まれ変わったと感じました。その時新月の夜も太陽が出てきたように、市内と同じく明るくなりました。何も食べてなくてもお腹いっぱい食べたような感じでした。
- その時とても嬉しく感じました。今まで一回も踊っていない人間が嬉しくて、つい踊ってしまいました。
- 電気が来たときは夢だと思いました。その日今までも忘れられないです。つい思い出します。
- ブジュンには電気が来ると聞きました。それは話だけになると思っていました。しかし話だけじゃなくて実現したその日とても嬉しかったです。
- 嬉しくて足が地面にあるかどうか分からないぐらいでした。自分は天国に着いたことを感じました。
- 電気が来てとても良かったです。電気で出来ないことは何も無いという事が分かりました。電気が来て我々には夜仕事が出来ようになりました。
- 全国にニュース聞きますと。ネパール停電が多いです。でも我々の村では24時間電気があります。
- 電気が来てから灯油にお金を使わなくても済みました。Tukki (ランプ) を点けて生活するときの問題がなくなりました。消費の金額が減りました。子供たちの勉強時間が伸びました。
- 電気!! 私はとても嬉しいです。薪を使う問題が減りました。それと夜も時間がるとき色々な仕事が出来ようになりました。それから子供たちの勉強時間も長くなりました。

ネパールでの荷物運搬用索道建設にご支援をお願いします。

私たち徳島ネパール友好協会は、1999年にネパール中部ラムジュン郡の最奥の村、ブジュンに80Kwの超小型水力発電所を寄贈、今年10周年を迎えます。

私たち徳島とブジュンの結びつきは、この水力発電所の寄贈にとどまらず、中学校への寄宿舎の寄贈、訪問するたびに教材や文具を届けるとともに、今も毎年奨学金の寄贈を続けております。また、3回にわたる有用薬物植物調査や移動クリニックも行ってきました。ブジュン村では、発電所の竣工式が行われた12月3日を『徳島デー』と決め徳島への感謝を込めて毎年村をあげてお祝いをしています。

私たちは、今年、ブジュンの人々とともに水力発電所の10周年を祝うにあたり、村の人々のさらなる生活向上のために何か出来ることはないかを話し合ってきました。そして、最後にこの索道計画にたどり着きました。そしてこの計画は、ブジュンの人々から「徳島の人たちは、どうして私たちの気持ちが分かるのか」と大歓迎を受けました。

徳島県民から寄せられた浄財で建設された発電所は、村の人たちの生活を著しく向上させました。石油ランプ、ローソクが電灯に変わり、灯油の購入や毎日の石油ランプの手入れから解放されたのみでなく、テレビがあり絶え間なく産み出される電気によりいつも湯のある暮らしも実現しました。子供たちは夜でも電灯の下で勉強できるようにもなりました。

しかし、村の生活基盤である農業労働の過酷さは昔も今も変わりありません。ネパールにおいては、人の住まう村々は尾根上に展開しており、ブジュンについていえば、川沿いにある田畑と村落の高度差は300~400メートルもあり、人の背以外にものを運ぶ手だてを持たない人々は昔から農産物、資材そして家畜のえさとなる草をはじめすべてのものを人の背で運んできました。この過酷な労働は、女性、老人、子供といえども例外はありません。これまで幼気な子供たちが身体が隠れるほどの家畜のえさとなる草を背負い急登を登っているのを目にする度に胸が痛んでいました。また、試しに担ごうにも持ち上げることすら難しい30キロはあろうかと思われる米を担いでいる子供たちに鈍っている自分の体力を痛感させられてきました。

この農業労働軽減のための荷物運搬用索道の建設には、約1000万円の工事費が必要となりますが、ひとり徳島ネパール友好協会だけで工面することは至難の業であり、幸いなことに国際ボランティア貯金の利子の配分金を受けることが出来ました。また200万円あまりが不足しております。10年前の水力発電所に続き徳島県民からの贈り物としてブジュン村にこの索道を贈るため、前回に引続き県民の皆様にご支援をお願いする次第です。事業の工期は本年4月から12月を予定しております。厳しい時節柄ではございますが、何卒ご理解ご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

2009年4月

振込先(宛先は銀行、郵便局とも徳島ネパール友好協会)
(銀行振替) 阿波銀行石井支店(普) 1009369
(郵便振込) 石井郵便局 01600-2-52742

徳島ネパール友好協会

☎779-3211

徳島県名西郡石井町藍畑字西覚円718-5

TEL・FAX 088-674-4168 TEL 088-675-0835

徳島ネパール友好協会メールアドレス : tonfa@mxi.netwave.or.jp

○ 2月シビックセンターで実施する「写真展」に続き、点灯10周年・同索道完成を記念する「山・人・村 そして索道」写真展を3月24日～30日に貞光ゆうゆう館（美馬郡つるぎ町）を皮切りに、3月～4月にかけて索道建設技術陣の地元である、那賀郡那賀町、勝浦郡上勝町、三好市で開催する予定です。近隣者の方、又は友人・知人をお誘いのうえ是非ご観覧下さい。日程・会場が決定され次第、徳島新聞等マスコミをとおり通知いたします。

○ 平成21年度国際ボランティア貯金寄附金の配分決定通知（平成22年度事業実施分）が平成22年3月上旬にあります。（索道設置2本と小型水力発電所の出力アップに必要な金額として、約2,000千万円申請）

本年度に続き配分されることが濃厚で、事業実施の可能性が高いと考えています。その場合、4月、若しくは5月に協議、調査・測量等のためブジュン村を訪れます。そこで、当事業に関する経験者でお手伝いをして頂ける方、関心のある方、あるいはこの度完成した索道の見学等ブジュン村への訪問希望者は事務局まで連絡下さい。

○ 協会活動は、会費によって運営されています。特に本年度は、索道建設等ブジュン村点灯10周年記念事業の推進活動で、多額の経費が必要となっています。

2009年度会費が未納の方は是非納入を宜しくお願いいたします。

また、当事業への支援をお願い出来る方、宜しくお願いいたします。

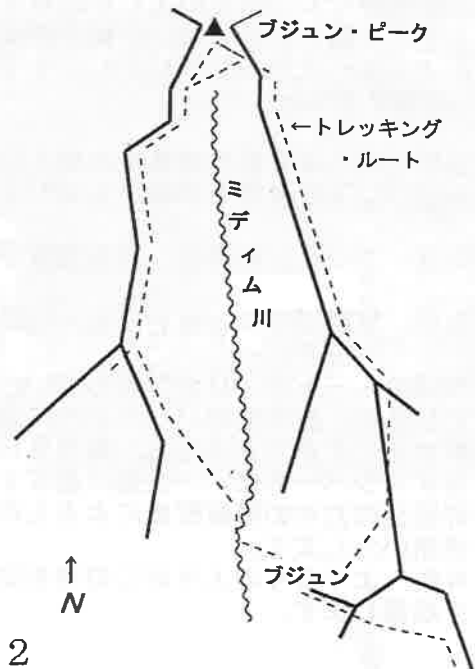
普通会員 5,000円、賛助会員 10,000円 口座名義は双方共 徳島ネパール友好協会
（銀行振替）阿波銀行石井支店（普通）1009369 （郵便振込）石井郵便局 01600-2-52742

ラムジュン・ヒマール・トレッキング報告 —ブジュンの里山ブジュン・ピークを目指して—

小型水力発電所完成10周年記念行事「ラムジュン・ヒマール・トレッキング」。会員2名と一般公募の3名の計5名（うち女性1名）、平均年齢59歳の中老年パーティーでブジュン・ピーク（4,672m）へ行ってきました。カトマンズからの概要を報告します。

1日目：早朝、荷物と一緒にバスに乗りカトマンズを出発。6時間かけようやく麓のベッシサハール到着し、ここで昼食。四輪駆動車に乗り換え悪路を登ること3時間一歩けば1日掛かりの行程でガレガオンに到着。我々のザックやキャンプ用具などブジュンから迎えの方々に預けて歩き出す。尾根にでたところで入域許可書のチェックを受ける。夕日に照らされるラムジュンやマナスルの山々を見ながら歩き、真っ暗な中ブジュン村へ到着。村人達の大歓迎を受け、この日はロジ泊。（行動時間3時間 標高1,600m）。

2日目：ガイドやコック、ポーター等総勢22名のパーティーとなる。我々は、サブザック一つで出発。カメラ片手に約3時間かけてテルブルン峰(Telbrug Danda)の尾根に出る。雲間から見えるマナスル(8,163m)を見ながら、コック達が作る暖かい昼食を食べ再出発。ここからはネパール国花のシャクナゲ林の下を歩く。約2時間かけ林間の開けた放牧地でキャンプ。我々の就寝用—マット・枕付き—テント3張、食事用、調理用テント各1張に加え、便座付きトイレ用テントまであり、終始快適なテント生活をおくることのできた。（6時間2,800m）



3日目：モーニング・ティーで目を覚まし、お湯で顔を洗って、お粥中心の朝食をとって出発。約1時間で開けた尾根(3,150m)に出る。右手にヒマンチュリ、ピーク29、マナスル、正面にはラムジュン、左手には遠くマチャプチャレが見え、来てよかったと思わせる所である。ここからはシャクナゲも低木となり、見晴らしはよい。日差しが強いので半袖で霜柱を踏みしめながら歩き、昼前にはキャンプ場所へ到着。午後霧がかかると寒く感じるが、マナスルを眺めながらゆったりと過ごす。(3時間3,300m)

4日目：今日もヒマラヤの山々を眺めながらの尾根歩きで、昼前に放牧地のキャンプ場所へ到着。高度順応のこともあるが、水場の位置によりキャンプ場所が規制される。昨日の霧(雲)の上に位置しており、北には白きヒマラヤの峰々を望み、南には雲海が広がるすばらしいキャンプ場である。ガイドの日本語の堪能なフリ君は初めてのルートで、地元ガイドのタッカ君らと我々が持ち込んだ地図を見ながら検討した結果、明日1日で往復してみる事となった。(2時間30分3,750m)



ブジュン・ピークから見たラムジュン・ヒマール

5日目：ガイド3人とブジュン・ピークを目指して出発。4,000mを超えた辺りが森林限界となり、昼頃ようやくピークが顔を見せる。ピークの南面の頂上横の草付きの斜面を、空気の薄さを実感しつつ喘ぎ喘ぎ登り、ようやく頂上に到着。眼前にラムジュン・ヒマール(6,931m)の全景が見渡せるほか、白き神々の座が広がる。既に午後2時を回り急いで西側の岩尾根を降り、途中から圏谷(カール)へ下り、ミディム川の源流に沿って下る。トレッキング・ルートとなっているトラバース道からキャンプ場へ戻った。(12時間)

6日目：休息日とし、疲れを癒すとともにポーターたちと交流を深める。

7日目：一昨日通ったトラバース道を進み、源流の小川を渡ったところで昼食。この辺りからまたシャクナゲ林となる。西側の尾根をどんどん下った鞍部の放牧地でキャンプ。(6時間3,300m)

8日目：少し登り返すも白き峰々を写真に納めながら下る。タプレンの避難小屋(Tapren Dharmshara)を過ぎたところから一般的なトレッキングルートを外れ、尚も南下し3,100m付近から尾根を外れてどんどん下り、少し開けた放牧地でキャンプ。地図にルートの記載がなく、地元の人しか知らないルートで常に霧がかかるせいか植生が豊かで、夜マングースやムササビを目にする。(7時間2,500m)



マナスル・ヒマール(8,129m)

9日目：尚も下り続け発電所の取水口の所へ出る。昼食までの間、川で汗を流しすっきりする。川沿いに下り発電所の横からブジュン村へ登り返し、ロッジ着。(6時間)

10日目：ブジュン村滞在。村の散策や記念式典に出席。

11日目：早朝ブジュン村を立ち、往路を引き返し、夜カトマンズのホテルに到着。

今回のルートは、ロッジ等もないため殆ど人が入っておらず、日本でも紹介されていないルートでしたが、途中他のパーティーに合うこともなく、イギリス流の伝統的なトレッキング生活を満喫することができました。食事も日本人向けに配慮されたものであり、高山病などにより体調を崩すメンバーもなく、快適に過ごすことができました。これもひとえに、ネパール徳島(日本)友好協会の方々の格段配慮によるものであり、さらにはブジュンの人々の協力によるもので改めて感謝いたします。

今後、より多くの人々がこの地を訪れ山を楽しむとともに、ブジュンの人々の交流が深まることを期待します。